

2021年1月12日

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会（連絡協）
の財政報告

四日市コンビナート協力会社
災害防止協議会等連絡協議会



1. はじめに

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会（連絡協）の財政の推移と現状について報告する。

2. これまでの経緯

平成27年時点で連絡協の財政は徐々に悪化していた。主要収入である年会費は、各元方（発注者）企業の協力会（協議会）組織ごとに固定費3万円と加盟会社1社につき1千円であり、協議会設立時には640社程度の加盟会社数があったが、平成27年度では500社程度に減少しており、平成18年度以降は100万円程度の会費収入で推移していた。

平成27年で過去5年間の費目ごとの収支（収入—収入）を見ると、総会が-308千円、優良施設見学会が-309千円、研修講演会が-277千円、職長教育・安全管理教育の講習会収支が+386千円となっていた。また、事務経費などの経常経費は年間880千円程度必要となっていた。

総じて、連絡協の財政収支は、平成21年より悪化傾向にあり、年間平均371千円減少しており、平成27年度期末繰越金は1,800千円程度になっていた。

平成27年当時の年間収支平均（単位：千円）

会費収入	1,017
講習会収支	386
総会収支	-308
優良施設見学会収支	-309
研修講演会収支（講演会・意見交換会）	-277
経常経費	-880
収支	-371

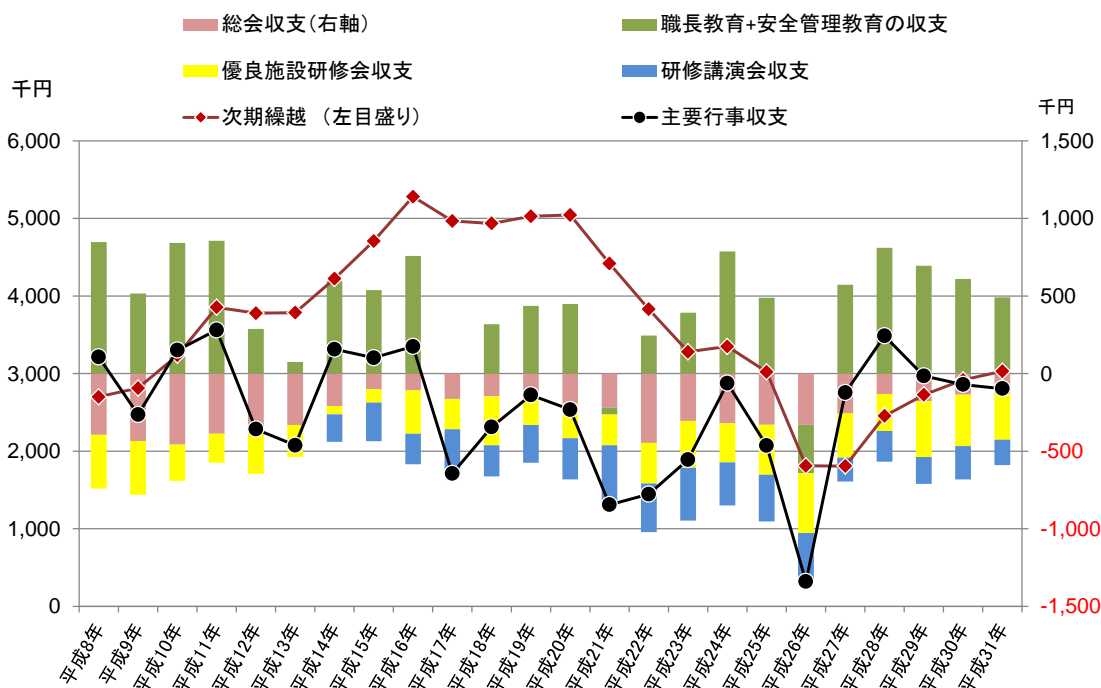
この状況を放置すると財政は、4年で破綻し連絡協の活動は停止せざるを得なくなるこ
とが予想されたため、財政健全化の施策について幹事会で協議し次の対策が実行された。

- ① 会費 1社年間500円の値上げ
- ② 優良施設見学会会費の値上げ 30→38千円
- ③ 総会意見交換会値上げ 5→6千円
- ④ 職長教育テキストの印刷製本の内製化
(KYT教育 年間回数 2→3回に増加開催)

3. 財政の改善状況

平成27年以降主要行事（総会、優良施設見学会、研修講演会、職長教育と安全管理教育）の収支の安定化により財政状況は徐々に改善し、令和元年繰越金は、3,030千円となっている。

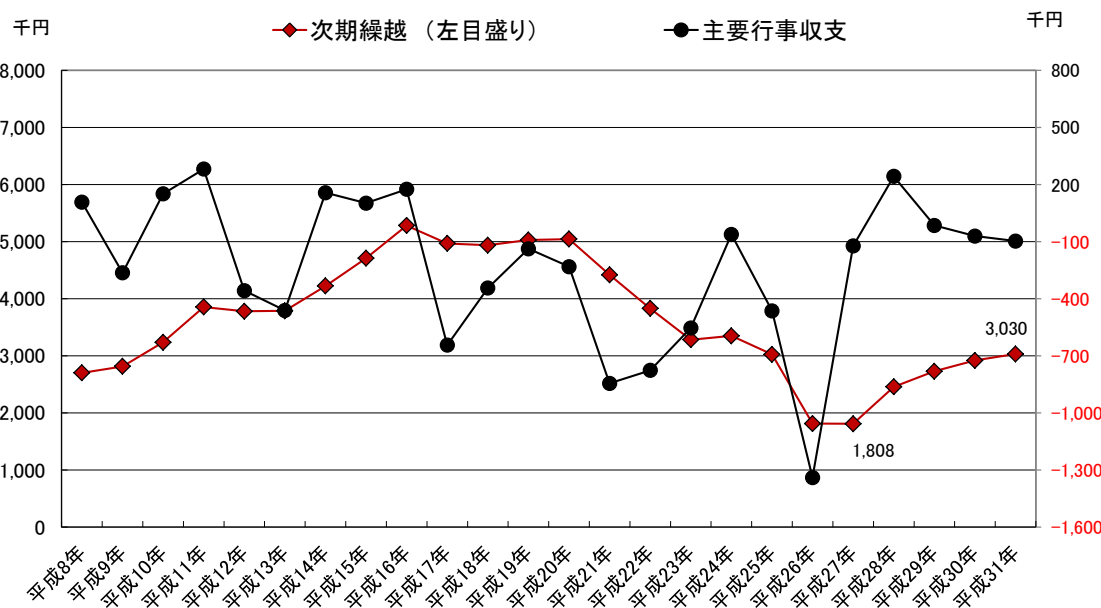
連絡協議会 繰越金と主要収支の推移



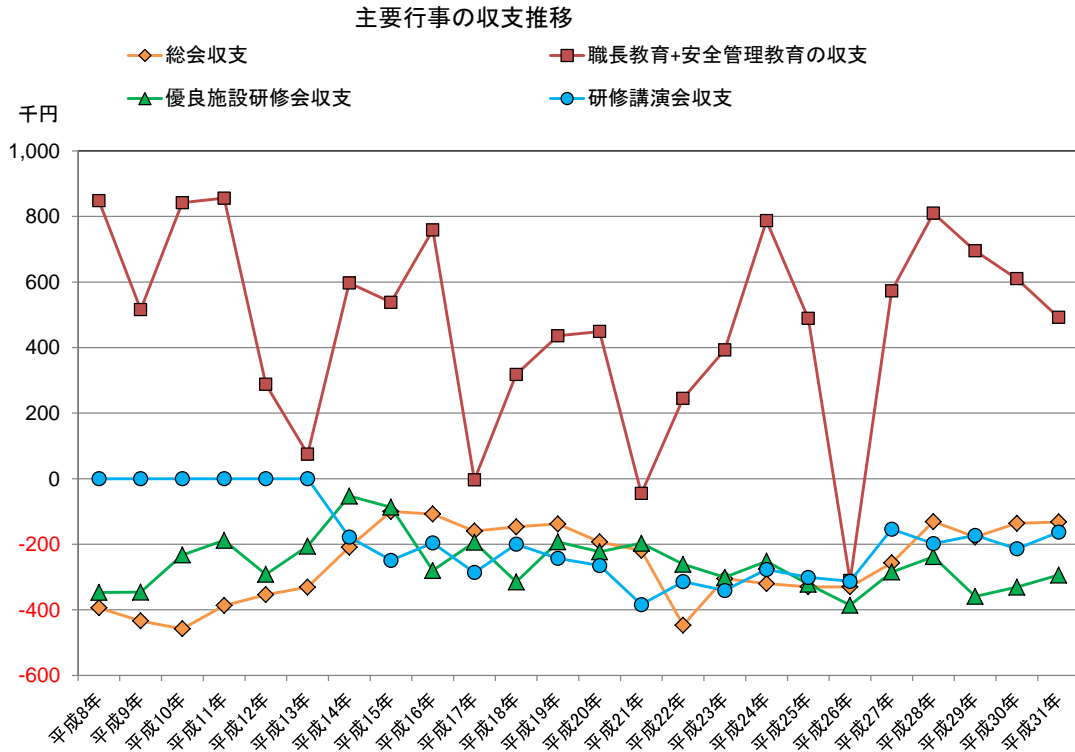
4. 財政収支改善の項目

収支改善で大きいのは、主要行事の収支改善であり、職長教育テキスト印刷製本の内製化、職長教育・安全管理教育収支の安定化により収支が安定している。

繰越金と主要行事収支の推移

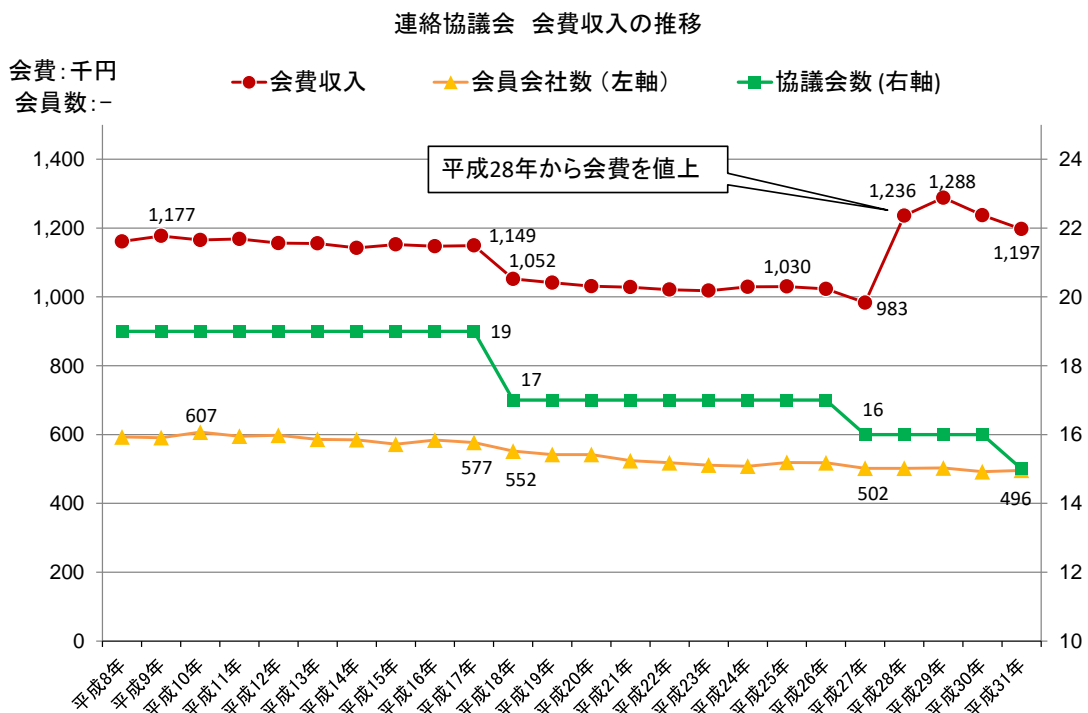


主要行事の個別項目は、総会、職長＋安全管理教育（KYT）、優良施設見学会、研修講演会である。職長＋安全管理教育の収支が安定化したことが多く貢献している。



会費収入

会費収入は平成 28 年から値上げしているが、加盟協議会（協力会）数と加盟会社数が減少しているため、過去の収入レベルを維持するにとどまっている。



5. まとめ

(1) 会費収入

平成 28 年から会費を値上げしているが、会員数の低下で値上げ効果は相殺されている。
今後会費収入の増加は望めない。

(2) 主要行事の過去 4 年平均の収支（平成 28 年度から令和元年）

(ア)	総会（意見交換会を含む）	-144 千円
(イ)	優良施設見学会	-306 千円
(ウ)	研修講演会（意見交換会を含む）	-187 千円
(エ)	<u>職長教育と安全管理教育</u>	<u>+652 千円</u>

小計 + 15 千円

主要行事の収支は、年間-509 千円から +15 千円に改善している。

平成 28 年から安全管理教育（KYT）は、年間 2 回から 3 回に回数を増やしたので
収支改善に貢献している。

(3) 連絡協の財政は安定な状態になったので、この状態を維持するように努めることとする。

以上